



# 札私幼

発行

一般社団法人  
札幌市私立幼稚園連合会  
札幌市西区宮の沢1条1  
札幌市生涯学習総合センター内  
TEL011-671-3590  
FAX011-671-3591  
<http://www.s-youchien.or.jp/>  
info@s-youchien.or.jp

## 子ども・子育て支援制度検討部会 設置されました

札私幼振興委員会の中に「子ども・子育て支援制度検討部会」が設置されました。幼稚園設置者・幼稚園、保育園設置者・認定子ども園設置者と色々な角度からの視点で行政を含めた意見交換会を行う事で、新制度に対する認識を深め各会員園に情報提供していくことを目的に設置されました。



第一回目八月二十六日(月)

子ども未来局子育て支援部長福田様

第二回十月四日(金)

北海道総務部学事課企画幼稚園係猪股様

第三回十一月十三日(水)

子ども未来局子育て支援部計画担当草野様をお招きし、情報提供と質疑応答をさせていただきます。

詳しい内容につきましては、振興委員会が管轄しておりますので、情報を精査し、お伝えしていきたいと思っております。



## 北海道私立幼稚園協会教育研究大会札幌ブロック大会 札幌市私立幼稚園連合会教育研究大会が行われました。

平成二十五年十月十八日(金)十九日(土)の二日間にわたり第五十六回北私幼研究大会札幌ブロック大会・第四十五回札私幼教育研究大会が行われました。参加者総数は、千六百名を超え、初日十八日は、市内私立幼稚園十七園・市立幼稚園一園・市立小学校二校の協力により公開保育が行われ、二日目十九日は、札幌市民ホールにて全大会が行われました。



総会に先立ちまして大会長でもあります札私幼会長 前田元照 先生と北私幼副会長 芝木捷子 先生より御挨拶をいただき、たくさんのご来賓の中から衆議院

議員 ふなはし利実 様・札幌市副市長 井上唯文 様・札幌市私立幼稚園PTA連合会 白井晴彦 会長 より祝辞をいただきました。



基調講演では、全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 副理事長・学校法人あけぼの学園認定子ども園あけぼの幼稚園園長 安家 周一 先生による御講演を頂きました。前半部分は、演題「子どもの姿を科学する」という内容でお話しいただきました。



後半部分は、副大会長・札私幼研究委員会  
会担当副会長 丸谷雄輔 先生が加わり、  
大会実行委員長・札私幼研究委員長 藪  
淳一 先生の進行のもと、会場の参加者  
からの意見を抽出しながらディスカッショ  
ン形式でお二人にお話いただきました。



### 政令第十二回次世代幼稚園団体協議会 第十二回次世代幼稚園研修会 千葉大会

あゆみ幼稚園 富樫 比沙

この度は、政令指定都市私立幼稚園団体協議会 第十二回次世代研修会 千葉県大会での大変貴重な時間と様々な学びの場を与えて頂いたことに感謝いたします。

平成二十五年八月二十九日（木）

基調講演 京都サンガホームタウンダイレクター 池上 正先生による  
「教職員の育成方法」くリーダー

シップのとり方、  
池上先生は『サッカーで子どもをぐんぐん伸ばす11の魔法』など2冊の著書があり、大阪では、子育て支援センターでアドバイザーを務めた経験を持つ方でした。

講演の中では、感受性訓練を交えながら実体験をお話頂きました。  
・現代は自然発生リーダーが少なく、なりたくもないのに年功序列でなってしまう。  
・リーダーには様々なタイプがある（独裁/民主/放任）全てに良い悪しがある。  
共通してリーダーに必要な事は、自分の力だけではなく、チームの力があって今がある事に気がつく。皆で考えられるリーダーとして後継者達を育てる事が重要だとの事。「リーダーこそ失敗し、謝ろう。」の言葉が心に残り考えさせられるものでした。

その後の、グループディスカッションでは9グループに分かれ、私は2グループに入り園長・理事長職の諸先輩方の話を伺いました。

・リーダーとしてどうリーダーを生かし、その場にあった方向性を見出し、現場でのモチベーション作りを大切にしているのか。  
・大きな年の差があるギャップをどのようにうめればよいのか。  
・任せるが、必ず確認する。  
・毎学期の個人懇談で普段の悩みを聞き、リーダーとして自分の振る舞いはどうなのか考える。

日々の努力と責任、そして悩みを伺う事ができました。私は、一教諭としてリーダーには学びと包容力を求めている事をお伝えし、そのグループの主まとめと発表を務めさせて頂く大変貴重な学びもありました。

平成二十五年八月三十日（金）  
幕張インターナショナルスクール幼稚園視察  
インターナショナル幼稚園でありながら、日本の学習指導要領に沿って教育が行われ、文化の違いから来る表現の自由さやアイデアが沢山あり、保育の参考になりました。また、教師間の「THEMS」(※写真真一)は感謝したい人の写真に言葉が書かれていて、お互いを高め合う素晴らしいものでした。

この研修を活かし、中堅としてのリーダーの役割を見つめ直したいと思えます。また、沢山の刺激と学びがこれからの保育への糧となりました。今後このような機会があれば、積極的に参加したいと願います。

### 札幌市子ども子育て会議

十月十日(木)、第一回札幌市子ども子育て会議が全日空ホテルで行われました。今回は初回という事で、委員紹介・事務局紹介の後議事に移りました。議事は下記の通りです。

1. 会長、副会長の選任について
2. 子ども・子育て会議の運営について
3. 子ども・子育て支援新制度の概要について
4. 子ども・子育て会議の役割及び新たな子ども施策に係る計画の策定について
5. 計画策定に係るニーズ調査の実施について

札私幼からは、前田元照会長・芝木捷子理事・認定子ども園まなび・三井有希子理事長が委員として出席し、公定価格設定の時期、幼稚園における特別支援について等、活発に発言をしておられました。

議事にもありましたが、現在札幌市では、一万五千世帯を無作為抽出し計画の策定に必要な子育てに関する基本的な市民意識や札幌市の子ども・子育て施策に対する意見等を把握するため、ニーズ調査を行っています。このニーズ調査の結果を基に「子ども・子育て支援新制度」についての具体的な内容が決められていく事と思います。

広報委員会では、今後も子ども・子育て会議の取材を行い、広報誌にて内容をお知らせしたいと思っております。

### 園紹介アラカルト

札幌幼稚園 主任 兼子寿子



今年で42年目を迎えた札幌幼稚園。子どもが創造する「子どもの城」を目指し、生きる力の基礎となる子どもたちの心と体と知恵の調和のとれた発達を「遊び」を通して育んでいます。その中で、

- ・「う（歌声）・わ（笑い声）・さ（叫び声、歓声）声」のある幼稚園
  - ・「心の安心と安全基地」となる教師
  - ・「育ち合う」個と集団
- を目標とし、『やさしい子・かしこい子・つよい子』という子ども像を目指して、活動の2本の柱としてコーナー保育・クラス保育を重点に日々保育を進めています。

\*コーナー保育は自主的に遊びを選択し、その中で異年齢の関わりを大切にしている時間  
「今日は何してあそぼうかな」「昨日の

続きをしたい」1人ひとりが自発的・自主的に遊びを考え友達とかかわれる環境を設定し、子どもの声を聞きながら遊びの充実をはかっています。その中で教える姿・助け合う姿・考える姿が日々見られ、子ども同士での多くの刺激を受けています。

\*クラス保育は集団の中で様々な直接体験をする中で、個性を認め合う仲間作りを大切にしている時間

園生活に大切な「安心感」を抱けるような空間や人的環境を作り、自己発揮できる場として過ごしています。表現遊びや伝承遊び・運動遊び等様々な活動を取り入れながらファンタジーの世界を思う存分楽しめるような保育となるよう、教師1人ひとりの個性あるアイデアを出しつつ進めています。

この保育の柱を基に進めている札幌幼稚園の保育の中に、近年より力を入れていく活動として、『自然体験活動』を四季の中で経験できるように取り組んでいます。幼稚園とは違うフィールドで特別な自然体験活動として「森のようちえん」を夏・冬休みに行っています。夏は登山や川遊び、虫探しや旧校舎のグラウンドでの流しそうめん、冬は冬山の登山や滝野自然学園での雪遊び等を行っています。毎回参加者多数で抽選になる程人気があり、子どもが自ら「行きたい！」と積極的な声や、「普段では経験させてあげられない事だからぜひ参加させたい」と話す親が増えています。

親にも自然体験活動の良さが浸透し始めてきたことから、親子の自然体験活動を昨年から取り入れてみました。終了後は「本当に楽しかった！またこのよう

機会があれば参加したい」という声があがっていました。自然の中でのびのびと体験することで体はもちろん、精神的にも成長が見られていることを実感しています。

他にも、札幌環境教育リーダーの派遣を取り入れた「春・夏・秋・冬の自然あそび」を行事として取り入れています。森のようちえんとは違い、普段のフィールドでの自然の中での遊びを提案してもらった中で自然物に興味を持ちたり、何より教師にとっても勉強となる活動となりました。その遊びを日々のコーナー保育やクラス保育でも取り入れ継続性も大切にしています。

「子どもの城」の中で、自分で発見し考え実践できる環境を大切にしながら、卒園してからも個々の力を発揮し「生きる力」の基盤作りとしての園生活を送れるよう、教師それぞれも毎日研鑽をつみながらより良い札幌幼稚園の保育を今後も考え実践していきたいと思っています。



発寒幼稚園 副園長佐藤 亜美



発寒幼稚園は昭和三十年に屯田兵の家屋を改装して発寒幼稚園として開園しました。来年度創立六十周年を迎えます。園庭には樹齢百年を越す大きな杏の樹があります。春にはピンクのかわいい花をつけて夏にはダークグリーンの葉を茂らせオレンジの実をつけます。秋には葉の色がオレンジや黄色に紅葉して冬には寒さや雪の重さに耐え四季折々の姿を見せながら開園当初からずっと子ども達を見守っている幼稚園のシンボルツリーです。発寒幼稚園では様々な保育形態をとり全教職員でクラスの枠を超えて子ども達と触れ合っています。担任が一日クラスを交替する“終日担任交替”や、表現あそび、音楽、実験など教師の持ち味や得意分野を活かした“チャレンジタイム”や季節の特色を生かしたたくさんのあそびから選択してあそぶ“ステーション活動”、一年間同じメンバーで活動する異年齢縦割りの“兄弟チーム活動”などです。ステーション活動では希望される“お母さん先生”“お父さん先生”にもお手伝いいただき子ども達と一緒にあそんだり私達の気づかないところを補ってもらっています。兄弟チーム活動では“もう一つのクラス”としてたなばた祭り、ハロウィーンパーティー、お料理教室、発表会活動、ドッジボール大会などを通して絆を深めて活動しています。大きい子がしげんと小さい子のお世話をしたり小さい子が大きい子にあこがれてついてあるいたり真

似をしたり仲良く活動しています。兄弟チームの時間だけではなく普段から子ども達がいろいろなクラスに行っておりあそぶ姿があり仲良く生活しています。二月にやられるお別れ会では大きい子も小さい子も涙する姿に胸がジーンとします。今年6月に開室した幼稚園保育室“にこりんクラブ”には一歳二歳の小さい子が元気に通ってきています。幼稚園の子ども達が大喜びで手をとったりだっこして一緒にあそんだりおやつ準備を手伝ったりかいかいしくお世話をしています。子ども達がとても楽しみにしている行事には地下鉄やJRに乗って青少年科学館やサンピアザ水族館、中島公園などにでかけたり、幼稚園バスで山登りや、海水浴、社会見学にも出かけたり自然に親しんだり、地域の人と交流したりすることがあります。また、卒園生もよくあそびに来ます。小学生、中学生はお兄さん先生、お姉さん先生として園児とあそんでくれたり高校生や大学生が行事の手伝いに来てくれることもあります。中には大人になって近況報告や子どもをつれて園を訪れてくれる子もいます。これからもこの園で出会った縁を大切にしたいと考えています。



連合会 日誌

- 八月一〜六日 幼稚園パネル展
- 八月二六日(月) 第一回子ども子育て新制度検討部会
- 八月二九日(木) 政令指定都市
- 八月三一日(土) 団体協議会次世代交流会千葉大会
- 九月 三日(火) 第四回理事会
- 九月 九日(月) 総務委員会
- 九月 十日(火) 上田市長と 幼児教育勉強会
- 九月 十日(火) 予算事務折衝
- 九月 十二日(木) 市議会予算勉強会
- 九月 十七日(火) 予算事務折衝
- 九月 二七日(金) 第三回リーダー力 スキルアップ講座
- 十月 四日(金) 第二回子ども子育て新制度検討部会
- 十月 七日(月) 私立幼稚園振興議員連盟予算勉強会
- 十月 九日(火) 振興委員会
- 十月 十日(木) 子ども子育て会議
- 十月 十日(木) 広報委員会
- 十月 十六日(水) 第五回理事会
- 十月 十八日(金) 総務委員会
- 十月 十八日(金) 第四十五回教研大会 (公開保育)
- 十月 十八日(金) 設置者園長研修会
- 十月 十九日(土) 第四十五回教研大会 (全大会)
- 十月 三十日(水) 補助金事務説明会
- 十月 三十一日(木) 平成二十六年予算市長要望(市役所本庁舎)
- 十一月 三日(日) 桑園幼稚園開園九十周年記念式典・祝会
- 十一月 十三日(水) 第三回子ども子育て新制度検討部会
- 十一月 二十日(水) 総務委員会
- 十二月 十七日(火) 第六回理事会
- 総務委員会
- 養成校懇談会

札私幼コラム

初雪のお知らせが届き、街を歩けばどこからクリスマスソングが聞こえてくる…。この時期になるといつも、一年はあつという間だなと驚かされます。2学期も残りわずかとなりました。幼稚園の大きな行事のひとつとして、発表会を行う園も多いかと思えます。劇遊びを通して、いろいろなお話に触れ、役になりきって表現することの楽しさを感じたり、様々な楽器に興味をもち、音を出すことから始まる楽器遊びから曲を演奏することへとつなげていったりなど、たくさんの経験をすることでしょう。発表会に向けての活動が盛んになってくると、ふとした瞬間に子ども達がうたを口ずさんでいたり、園庭や教室の一角が舞台上に早変わりして劇が始まる…。といった光景も目にするようになります。このように、子ども達が普段の活動を自然と遊びの中に取り入れていく様子を見かけると、思わず顔がほころびます。当日、初めての発表会となる年少児は、ちよびりドキドキする気持ちで本番を迎えることでしょう。年中児は昨年の経験を基に、友達と心をひとつにして創り上げる喜びを感じ、年長児は園生活最後の発表会として、一人ひとりが自己発揮し、たくさんの感動をプレゼントしてくれることと思います。当日の子ども達の姿はもちろんです、この日に至るまでの過程を保護者にも発信し、共に成長を喜び合えたらと思います。

広報委員 天保 聖子